

大洲高校PTA月報

平成 27 年 5 月号

会員寄稿

教頭 竹内 好明

このたびの異動で、川之石高校から教頭として赴任してまいりました。115年の歴史と伝統をもつ大洲高校で勤務ができるということで、緊張感をひしひしと感じながら職務に励んでいます。初心を忘れず、早く肱川の水に慣れて、新たな気持ちで責務を果たしていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、校内の樹木も青々とした新緑に彩られて、さわやかな季節になりました。194名の新入生を迎えて1か月余りが経過しましたが、1年生は新しい学校に、2・3年生は新しいクラスに慣れたでしょうか。私自身、歳をとっても新しい環境に身を置くと、何となく不安を感じます。大人でさえ、このような状況ですから、感受性が強く、傷つきやすい青年期（思春期）の子どもたちにとっては、なおさらだと思います。新しい人間関係を改めて築くことは、かなりエネルギーを使うことになります。人は、このような経験を繰り返しながら他者とうまく付き合っていく力を養い、集団の一員として自己の在り方や役割を考えて、社会的行動をすることができるようになります。また、一方で、他者と関わっていく中で、様々な衝突や葛藤を経験し、時には悩むこともあります。自分の身体や容姿のこと、性格のこと、学業のこと、異性や友人のことなど、心の奥には様々な悩みを抱えており、それは決して特別なことではありません。悩みを克服する過程のなかで、人間性を高めていくのです。しかし、青年期の子どもたちは、他者の評価を気にして、自分で自分を認めにくいものです。

アメリカの心理学者エリクソンは、このような青年期の発達課題を「アイデンティティ（自我同一性）の確立」としてしています。「アイデンティティ」という言葉を説明するのは、かなり難しいのですが、「自分とは何か?」、「自分は一体何のために生まれてきたのか?」、「自分は一体何になっていくのか?」、このような問いに、自分なりの答えを出すことです。模索をすることで、自分を認めることができるようになり、徐々に自己肯定感が養われていきます。「自分を好きだ」と肯定的に捉えることができると、前向きになり、積極的、主体的に行動することができます。御家庭では、保護者の皆様がお子様の存在意義と価値に気付かせてあげてください。学校では、教職員が一丸となって579名のすばらしい生徒に対し、自分たちのすばらしさに気付くような支援に努めてまいります。

親睦が深まりました

～集団宿泊研修・遠足・カヌー大会～

1年生は集団宿泊研修（4月16～17日、国立大洲青少年交流の家）、2・3年生は遠足（4月17日、2年生は坊ちゃん劇場、3年生はカヌー大会）を行い、新しいクラスメートや学年団の先生方との親睦を深めることができました。3年生の「カヌー大会」においては4月18日付愛媛新聞にも大きく取り上げられました。

左写真：1年生（青少年交流の家の壁画は本校美術部作品です）、右上写真：2年生、右下写真：3年生

